

東京冷凍空調事業協同組合

東京冷凍空調事業協同組合の沖原正宜理事長はこのほど、報道関係者との懇談し、最近の組合活動について次のように語った。

組合を設立して七年が経過したが、設立当初のフロン回収を中心とした受注活動は、次第に氷蓄熱システムを中心とした東京都内各区や千葉、埼玉などの小中・高校の空調設備工事へとシフトし、体育館や公営レジャ

ー施設などの工事も施工するまでにあり、最近では官

公需物件を手掛けるまでに業態を拡大している。いまのところ全体に占め



沖原理事長

る構成比は一〇%前後であるが、今後は伸ばしていきたいと考えている。一物件当たり受注規模はさまざまであるが、な

かには十億円を超えるものも少なくない。組合員の企業規模は小さいながら

らも共同受注した工事施工には一致協力して当たり、一日に最大千人の作

業員を動員するほどの団結力もあり、同業者から高い評価を得ている。設立当初は技術力、施工力を売り物としていたが、最近ではさらに動員力を

プラスした総合設備業へと生まれ変わりつつある。

現在組合は十三社で組織しているが、今後質の

こうした中で施工高も年々倍増ペースで伸びており、二〇〇七年は前年

10億円を超える物件も

沖原理事長が専門紙と懇談

ネット事業も順調に推移

比約四倍弱、金額にして四十億円を見込んでい

また、組合の下部組織として設立した業務用冷凍空調機器のネット販売

「エアコンネットマート」については、『北は北海道から南は沖縄』に至る全国各地から注文を頂いており、売り上げも初年度を上回る規模で推移している。しかし、事業を進めていく上で幾つかの検討材料も生まれており、これらを一一つ改善していくことでネット事業の拡大に取り組んでいる。